

現代

外來語辭典

寺本一雄著

寺本一雄

1934年東京港区生 ~~ま~~ 三 れ。私立武蔵高を経て
早稲田大学文学部 (三 ~~英~~ 英文) 卒。同大学院修了。
現在、武蔵学園専 ~~任~~ 任三、早大講師。英語辞書、
テキスト類の執筆 ~~一~~ 編著がある。

現代外来語辞典

1981年 初版発行

定価680円

編著 ~~者~~ 寺 本 一 雄

発行 ~~者~~ 永 岡 貞 市

発行所 ~~所~~ 株式会社 永岡書店

東京 東京都練馬区豊玉上1の7の1
〒1176 ☎ 03 (992) 5155 (代表)

写植 宋文社 印刷 横山印刷

© Kazuo Teranamoto 1981
0581-14040-5615

現 代

外來語辭典

寺本一雄 編著

は し が き

ここ十数年来、外来語の動向には、その底流に微妙な変化が生じつつあると思われる。急激な経済成長とともに、押し寄せる国際化の荒波を、かぶる身構えに終始していた姿勢から立ち上がり、サーファーのようにこれを自在に乗りこなして行くだけの自信が、日本にもきざしてきた。戦時の“敵性語”後遺症ともいわれる終戦期の外国語アレルギーから脱却し、語学的知識も普及して、原語や直輸入型外来語に強い体質が生じてきたのである。

筆者も関係する英語教育の現場では、1960年代から本格化したテーブ・レコーダーの利用が、学習者の発音を飛躍的に向上させ、今日ではアルファベットの「V」が「ブイ」でなく、「ヴィー」であることを知らぬ中学生は皆無に近く、テーブによる発音練習から、若い世代の舌や口腔の筋肉は、旧世代には備えなかった新たな機能を獲得しつつある。

戦後世代が人口の過半数を占める現在、その影響が外来語の運用面にも現われてくるのは当然で、放送などにおいても、一部に「アクセサリー」、「アドヴァイス」(←その項参照)など、うなずけない面も残してはいるが、従来通りの「(写真用の)フィルム」と映画の「(新着)フィルム」とが両立するようになり、野球アナウンサーは「シリーズ」を「スイリーズ」、「チーム」を「ティーム」、「ファン」を「ファン」と発音するようになってきている。

要するに、現代日本の外来語は、ようやく国際語としての精度と機能を重視しだしたのであり、この傾向は、今後21世紀へかけてゆっくりと、しかし着実に進行してゆくものと思われる。

本書の編さんにおいては、現時点をその漸次的移行の過渡期とみる立場から、とくにつぎの諸点に留意した。
●まず、見出し語については、現代の日常語を中心に、

約11,000語を厳選し、慣用の定着しきらぬ語には、つとめてこれからさき望ましいと思われる表記を採用した。将来「ブ([b]音)」との区別が不可避と思われる「ヴ([v]音)」の復活などはその一例である。

●また、現代語のもつ国際的通用性を重視する観点から個々の語を洗いなおすことにより、原語との語義・語法上の差異を可能なかぎり明らかにするよう努めた。和転語・和略語・和転略語・和転用語・誤読語・誤用語・混成(混読)語・和製語・造語など、特殊な用語をあえて用いたのもそのためである。

●さらに本書では、一つの語を引いてその語義・語法のみを知る、いわゆる「一語一解」式でなく、語とそれにまつわる比較関連情報をつけ合わせるにより、さらに一そうその語の位置・性格・用法などが明確になる、とする、いわば「一語多解」の活用方式を採用した。小粒な辞典のなかで、語と語との有機的な相互関係が一つの小宇宙を構成すると同時に、とくに若い読者層にとっては語彙(②)の増殖をもはかれるよう配慮した。

その他、本書の持ち味を十分に生かしていただくために、後述の「使用上の注意」をぜひご一読願いたい。

執筆にさいしては、それまでの収集資料のほか、内外(とくに英米系)の各国語辞典・専門辞典・百科事典・書籍・新聞・雑誌類を参照したが、それらで解決しない語義・語法・発音上の問題点については、勤務校の同僚として語学を担当してこられた歴代外人講師の協力を仰いだ。ここにその名を記し、深く感謝するものである。

〔米語〕 James Robbins, Eric W. Swift, Terry B. Gray, Irene A. Simmons, H. Reid Nolte, Donald Johnson, Glenn H. Lehman, William A. Luttrell(野球米語), Burton C. Turner;

〔イギリス英語〕 Jeffrey P. Keeling, Judith A. Bone, Niels S. Kelsted;

〔独語・オランダ語〕 Hans J. Knaup

このほか現代中国語で高橋稔・松村巧の両氏、露語で狩野享氏より、貴重な助言を頂いたことを感謝する。

執筆・校正には細心の注意を払ったが、思わぬ錯誤や見落としもあるかと思われる。江湖のご教示を得て、一そうの内容充実を期したいと念願するしだいである。

本書の構想は永らく筆者の胸中にあったが、その具体化は、永岡書店より基本外来語の検討を依頼された約6年前に始まり、その後2年余をへて昭和52年夏より執筆を開始、約3年半を要して完成したものである。

この間、終始温かい理解をもって見守って下さった、同社社長永岡貞市氏をはじめ、村田道義氏、笹原昌幸氏ほか編集部の諸氏、写植技術上複雑な注文に快く応じて下さった宋文社の鈴木一策氏、矢部正男氏、その他、陰に陽に励ましをいただいた数多くの方々に、心から感謝の意を表するしだいである。また資料・原稿の整理、校正などでの寺本弘子の協力も、進行上不可欠のものであった。これらもろびとの支援なくしては、本書の成立ははるかに困難をきわめたことであろう。

1980年12月

編 者

使用上の注意

A. 見出し語

1. 本書の見出し語は約11,000語で、つぎの語をふくむ。
 - (1) 直接借入語： 原語の原音に近く、内容的にも原義のゆがみの少ない現代用語で、略語・略称・短縮形をふくむ。
 ☞ アイアン; オーヴァヒート; ジー・エヌ・ビー
 - (2) 和転語： 原音が日本的になまった語。
 ☞ デジタル; プリン; マンモス; レディー
 - (3) 和略語： 原語の一部を日本的に省略・短縮した語。
 ☞ コンビ; トイレ; ハズ; マス・コミ; リモ・コン
 - (4) 和転略語： 和転と和略の併用語。
 ☞ コロッケ; ジルバ; デフレ; テレビ; レボ
 - (5) 和転用語： 原語の語義・語法を日本的に転用した語。
 ☞ アヴェック; デッド・ボール; レンタ・カー
 - (6) 和転(略)・転用語： 和転(略)と和転用の併用語。
 ☞ スリッパ; ヒーマン; ラーメン¹; ラムネ
 - (7) 誤読語： 原語を誤って読んだ語。
 ☞ グッピー; ナップザック; ルーズ・リーフ
 - (8) 誤用語： 原語の語義・語法を誤って用いた語。
 ☞ サイダー¹; トランプ; ベニヤ; モルモット
 - (9) 混成(混読)語： 二国籍以上の原語(原音)を組み合わせた連語・複合語類で、和製語の1種。
 ☞ ヴァイオリン・コンチェルト; テーマ・ソング
 - (10) 和製語： 原語の構成要素を日本的発想で組み立てた、国際語としては意味をなさない語・連語・複合語・略語。
 ☞ ガードマン; キャンピング・カー; スキンシップ;
 ディー・ケイ(DK); デコレーション・ケーキ
 - (11) 造語： 内外のマス・コミに登場する新語・流行語類のうち、その原語に当たる外国語の辞典に定着しきらぬ語や、商標名など、とくに在日外国人間で、原語としても理解、ないし許容し得るとされる語をふくむ。
 ☞ ハイ・ティーンズ; レザリアム
2. 見出し語は、カタカナの五十音順とし、つぎのように配列・表記した。
 - (1) 長音「カー」「キー」「クー」などは、それぞれ「カア」「キイ」「クウ」と読みかえる位置に配列した。
 - (2) 同列の音は、清音(ハ)・濁音(バ)・半濁音(パ)の順とした。

○フライト; ブライト; ブライド; ブライド

- (3) 同一表記でもその原語や用法を異にする見出し語は、外来語としての使用頻度の高いものから順に、それぞれの右肩に¹²³の数字を付けて配列した。

○パイ¹(pie); パイ²(pi); パイ³((中)pai(牌))

- (4) 見出し語中の中点(・)は、その原語の表記において、2語以上の連語の語間や、複合語のハイフン(-)などに相当する個所を示す。

○ホット・ドッグ(hot dog); ユー・ターン(U-turn)

- (5) 見出し語中、()内の文字は、それを省略した語形も併用されることを表わす。

○アゲ(イン) (=アゲインまたはアゲン)

- (6) 略語は、そのアルファベットの読みを、他の見出し語と同じくカナ文字で表記し、五十音順に配列した。そのうちでとくに、A, H, J, K, Vの読みかたは、最近やや過潮ぎみの「エー」「エッチ」「ジェー」「ケー」「ブイ」から、より原音に近い「エイ」「エイチ」「ジェイ」「ケイ」「ヴィー」に改め、その他は従来通りの表記とした。

○イー・シー(EC); ヴィー・オー・ビー(VOP)

- (7) 略語の別称・通称・俗称は、その形を見出し語とした。

○アーサ(ASA); ユーフォー(UFO)

3. 慣用の流動的な比較的新しい語は、現代語としての精度と機能重視の観点から、その表記をつぎのようにした。

- (1) 従来「バ・ビ・ブ・ベ・ボ」で統一されてきた[b]音と[v]音は、原語への連想にとにかく混乱を生じやすいため切り離し、[b]音は「バ・ビ・ブ・ベ・ボ」、[v]音は「ヴァ・ヴィ・ヴ・ヴェ・ヴォ」とした。

○ビール¹((オ)bier; (独)Bier); ヴィール(veal)

ベスト¹(best); ヴェスト(vest)

- (2) [sw]音は、[kw][tw]音より日本語になじみやすいため、「スイ」「スエ」と区別して「スウィ」「スウェ」のようにした。

○スウィム(swim); スウェード(suede)

- (3) その他、[ə]音などの微妙な原音の表記は、個々の實際例に照らし、一律化を避けた。
4. 旧来の慣用が定着しきつたと思われる語は、原則としてその表記にしたがった。

○ツー・ピース(2two-piece); ビニール(2vinyl)

5. 空見出しで、別表記の語に読みかえるばあいは、一印でその見出し語を指示した。

○ジョギング →ジョギング

B. 原 語

1. 原語は、見出し語の直後におき、その国語名をつぎのように表示した。

(1) 英米(共通)語は、原則として無表示とした。ただし、両者間で語義・語法上とくに区別を要するばあいには、その語の直前に(英)、(米)と明示した。

(2) 英米語以外の原語は、直前の()で、その国語名をつぎのように示した。

(独)	ドイツ語	(ノル)	ノルウェー語
(仏)	フランス語	(スウ)	スウェーデン語
(伊)	イタリア語	(フィン)	フィンランド語
(露)	ロシア語	(ポー)	ポーランド語
(ス)	スペイン語	(中)	中国語
(ポ)	ポルトガル語	(朝)	朝鮮語
(オ)	オランダ語	(蒙)	蒙古語
(キ)	ギリシャ語	(ベ)	ベトナム語
(ラ)	ラテン語	(チベ)	チベット語
(ヘ)	ヘブライ語	(梵)	サンスクリット語
(ペ)	ペルシャ語	(ハ)	ハワイ語
(ト)	トルコ語	(エスキ)	エスキモー語
(デ)	デンマーク語	(アイ)	アイヌ語

(3) ギリシャ語やロシア語などは、その音訳字体で示した。

● サラファン (露)sarafan (原綴りはсарафан)

(4) 中国語は、現代中国のローマ字表記「漢語拼音字母」をまず示し、そのあとの()内に、その漢字を示した。

● ザーサイ ◁(中)zhācai(搾菜)

2. ◁印が原語の直前につくばあいには、その見出し語が、和転・和略・和転略・和転用・誤読・誤用・混成(混読)・和製(● A. 1.(2)~(10)のいずれかの語か、その一部に日本語をふくむ語で、見出し語と原語とが語義・語法上でなんらかの連和関係にあることを示すほか、新語・商標名などの造語(● A. 1.(11))で、原語じたいがなんらかの特殊性をもつことを示す。これらのばあいには、原則として、語義のあとに★印の注釈(● E. 2~3.)を付した。

3. +印が語間に入るばあいには、その語形が、国籍の異なる原語同士の混成(● A. 1.(9))、または和製(● A. 1.(10))などによる不自然な合成であることを示す。

● ウインドヤッケ ◁wind+(独)Jacke

ベース・アップ ◁base+up

4. 見出し語に表われない綴字部分や、見出し語と対応しない原語は、斜字体で示した。

◀インフレ ◀inflation

▶トランプ ▶trump; cards

5. 略語や短縮形は、そのあとの()内に全語形を示し、そのうち略語や短縮形を表わす部分を斜字体で示した。

◀エイチ・ビー HB(hard black)

▶パンツ pants(pantaloon)

6. 前出語と共通の綴字部分は、ハイフンを用いて省略した。

◀パジャマ ◀pyjamas; (米)pa- (=pajamas)

7. ()の綴字部分は、省略可能であることを示す。

◀グラマー' glamo(u)r (=glamourまたはglamor)

8. ()の語は、直前の語と交換可能であることを示す。

◀キック・ボクシング kick(Siamese) boxing
(=kick boxingまたはSiamese boxing)

9. 綴りの中の、~印は前出語の全語形を、~印はそれと同じ位置にある部分的構成要素を表わす。

◀single ... ~-breasted (=single-breasted)
green peas ... ~ pea (=green pea)

10. 原語につくべき冠詞類は、とくに示す必要のあるばあいを除き、省略した。

11. 語源の確定が困難なばあいは、その見出し語に最も近似する外国語のうち、代表的なものを原語として示した。

C. 語義

1. 語義は、主要なものを簡明に示し、2種以上にわたるばあいは、その直前に、①②③…の番号をつけて区別した。
2. 専門用語や、特殊な分野で多用される語には、その語義の直前に、[野球][科学]…のようにその分類を示した。
3. ◀印のつく語義は、その見出し語や原語に対する関係が、他の語義とは異なることを表わす。とくに、他と異なる原語をもつ語義の前には、◀印と共にその原語を()内に斜字体で示した。これらのばあいには、原則として、そのあとに、★印の注釈(★E. 2~3.)を付した。

◀サイン' sign ... ◀⑤(signature) ... ◀⑥
(autograph) ... ◀⑦(signal)[野球] ...

4. 語義の説明文中、()は省略可能部分や補足説明を、[]は直前語句との交換可能語句を表わす。

D. 用例

1. [例]として、その見出し語の使用例を示した。
2. 用例中の~印は、その見出し語の全語形を表わす。
- ◀ブーム boom ... [例] 映画~ (=映画ブーム)

E. 注釈

1. ☆印により、語義に関する補足説明や背景的知识、また語法上の関連事項として、見出し語の語源・由来や、同義語・類語・反義語・対語・派生語・関係語などを示した。注釈に引用した「」の外来語は、原則として本書中に検索し得る語で、⇒印の参照項目(⇨F.)と共に、見出し語の理解を深めるため、ぜひとも参照されることが望ましい。
2. ★印により、見出し語・原語・語義・関連語などの、語法上で注意すべき問題点を示した。とくに、◁印のつく原語(⇨B. 2.)や語義(⇨C. 3.)については、その、和転・和略・和転略・和転用・誤読・誤用・混成〔混読〕・和製・造語(⇨A. 1.(2)~(11))などの別を明示するか、あるいは直接に、その正しい原音や語義・語法を示すようにした。
3. 原語に◁印(⇨B. 2.)がつきながら、★印の注釈が見当たらないばあいは、つぎのいずれかである。

- (1) 単語・連語・複合語の、語頭の構成要素に共通の注釈が必要なばあいは、同じ注釈の反復をさけるため、その語の上方にあるその独立見出し語の★印注釈で代表させた。

⇨ツーフピース ◁two-piece (★印注釈がないので、「ツーフ」の項を引き、その★印注釈を参考にする)

- (2) 一部に日本語をふくむ見出し語は、語形上、原語との差異が明白なため、原則としてその★印注釈を省略した。
 - (3) 空見出し(⇨A. 5.)は、一印の指示語(の注釈)による。
 - (4) 上記以外は、⇒印(⇨F. 1.)の指示語の★印注釈による。
4. 注釈中、「」内に示したカナ文字の一部が太字のばあいは、原音などでその個所を強く発音することを表わす。

⇨★英音は「アドヴァイス」でなく「アドヴァイス」。

5. 注釈中、「」の語中で、≈印はその見出し語の全語形を、～印はそれと同じ位置にある部分的構成要素を表わす。
6. 注釈中、()は省略可能部分や補足説明を、[]は直前の語句・文字と交換可能な語句・文字を表わす。

F. 参照項目

1. ⇒印により、その見出し語の同義語・類語・反義語・対語や、その連語・複合語・派生語・基幹となる親語、その他の関係語など、必要な参照項目を示した。ばら読みの略語(⇨A. 2.(6))は、スペースの都合上、欧字で示した。
2. ⇒印の指示語中、≈印は見出し語の全語形を、～印はそれと同じ位置にある部分的構成要素を表わす。

【ア】

- アー・エー・ゲー** (独) AEG (Allgemeine Elektrizitäts Gesellschaft) 【電気】アルゲマイネ電気会社。☆西独の独占的電力(電機)企業名。1883年創立。★ドイツ語読みの略語。⇒GE; ジーメンス。
- アーガイル・チェック** <Argyle 【服飾】(靴下・セーター類の)ひし形・交差斜線の格子柄。☆スコットランド西部の地名(Argyll)から。★英語は単に「アーガイル」。⇒チェック。
- アーガス** Argus 【神話】百眼の巨人。☆死後その眼が孔雀の羽の紋と化した「(ギ)アルゴス(Argos)」の英名。⇒イオ。
- アーガス・カメラ** <Argus camera 【写真】複眼式小型カメラ。★造語。⇒カメラ。
- アーキオロジー** archaeology 【学術】考古学。
- アーキオロジスト** archaeologist 考古学者。
- アーキテクチャー** architecture ①建築(学)。②建築様式。
- アーキテクト** architect 建築家。設計技師。
- アーギュメント** argument 議論。論争。
- アーク** arc ①【電気】電弧。【例】〜灯。②円弧。弧形。
- アークティック** Arctic 【地理】北極(の)。北極圏(の)。☆「南極(の)」は「アンタークティック」。
- アークティック・オーシャン** Arctic Ocean 【海洋】北極海。☆南極海は「アンタークティック・〜」。⇒オーシャン。
- アークティック・ポール** Arctic Pole 【地理】北極。☆「ノース・〜」ともいう。⇒アンタークティック・〜。
- アーケイズム** archaism 【芸術】擬古主義。
- アーケイック・スマイル** <archaic smile 【美術】古代的微笑。☆古代ギリシャ彫刻特有のほのかな微笑をふくんだ表情。★「アーケイック・〜」の誤読語。「アルカイック・〜」は仏・英混成語。
- アーケード** arcade ①屋根つき商店街路。②【建築】(西洋寺院などの)アーチ状回廊。★英音は「アーケイド」。
- アーサ** <ASA (American Standards Association)
①【工業】米国規格協会。(転じて)米国規格。⇒ジス; デイーン。②【写真】(国際的に用いられる)米国規格式フィルム感度表示係数。★日本的呼称で、英語ではふつう「エイ・エス・エイ」という。⇒SS^a; SSS。 「ヴン。
- アース** earth ①【電気】接地線。②地球。③地上(界)。⇒ヘ
- アーチ** arch ①【建築】せりもち。弓形構築。弓形門。②弓

形(のもの)。④③〔野球〕→ホーム・ラン。例 満塁。

アーチェリー archery 〔競技〕洋弓術。⇒フィールド・。

アーチビショップ archbishop 〔主教〕①(新教の)大監督。

②(カトリック教の)大司教。③(ギリシャ教の)大主教。⇒
ビショップ。

アール article ①(新聞・雑誌)記事。②条項。③〔文

アーティスティック artistic 芸術〔美術〕的な。技巧的な。

アーティスティック・スウィミング artistic swimming 〔水
泳〕→シンクロナイズド・スウィミング。

アーティスト artist ①芸術家。☆「(仏)アルティスト」とも。

⇒アルティザン; デイレクタント。②美術家。⇒ペインター。

アーティフィシャル artificial 人工的な。⇒ナチュラル。

アーティフィシャル・フラワー artificial flower 造花。

アーティフィシャル・フレイヴァー artificial flavo(u)r 人
工香味。☆化学的につくり出した。花の香・松茸の風味など。

アート art ①芸術。②美術。⇒ファイン・アーツ。③技術。

アート紙 <art paper 〔印刷〕(写真印刷用の)上質光沢紙。

アート・シアター art theater 〔映画〕芸術〔実験〕映画の専
門上映館。☆一般上映館は「ムーヴィー・〜」。⇒シアター。

アート・ディレクター art director ①〔映画・演劇・テレビ〕

美術監督。☆衣装・セットなどのデザインをする。⇒ディレ
クター。②〔広告〕美術担当責任者。広告デザイン監督者。

アート・ロック art rock 〔音楽〕→ニュー・ロック。

アーバン・ライフ urban life 都会生活。⇒ルーラル・〜。

アーミー army ①軍隊。②〔軍事〕陸軍。⇒US ； ロイア
ル ； ☆海軍は「ネイヴィー」、空軍は「エアー・フォース」。

アーム arm ①腕。☆腕のつけ根から手首までの部分をいう。
⇒ハンド; レッグ。2 (椅子の) ひじ掛け。

アームチェア armchair 〔家具〕ひじ掛け椅子。⇒チェア。

アーム・ホール arm hole 〔洋裁〕袖ぐり。

アームレット <armlet 〔服飾〕(とくにひじより上の腕には
める)腕輪。★英音は「アームリット」。⇒ブレスレット。

アーム・ロック arm lock 〔じま〕腕がため。⇒ロック¹。

アーメン amen 〔宗教〕かくあらせ給え。☆祈りの結び文句。

アーモンド almond 〔食品〕扁桃の核の中の仁(え)。☆米カ
リフォルニア産・豪州産など。製菓・つまみ用。「(仏)アマンド
(★仏音は「アマーンド」)」ともいう。⇒ナッツ。

アーリー・ティーンズ early teens ①十代前期(約13~15歳)。

②その少年少女たち。★「ロー・〜」は造語。⇒ティーンズ。

アール¹ (仏)are 〔単位〕100m²。1₁₀₀ヘクタール。記号a。

⇒エーカー; ヘクタール。

アール² earl (称号) (英国の)伯爵. ⇨カウント; デューク.

アール・エイチ・マイナス <Rh(Rhesus)-negative (医学)

Rh陰性. ☆リーサス因子の凝血素を持たない血液型. この型の母と胎児との不適合は危険. ☆「Rhプラス」と共に誤読語. 英語は「Rhネガティブ」. ⇨プラス: マイナス.

アール・エヌ・エイ RNA(ribonucleic acid) (生化) (生物の細胞内の)リボ核酸. ⇨DNA.

アール・ヌーヴォー (仏)art nouveau (芸術)新芸術様式.

☆20世紀初頭フランスに流行した美術・工芸・建築の様式.

ア(ー)ント aunt おば. 親の姉妹. ☆おじは「アंकル」.

アード・ラン earned run (野球)自責点. ☆安打・四球・死球・盗塁など. 投手責任によって与えた得点.

アイ eye ①眼. ②〔服飾〕輪型留め金. ⇨ホック.

アイ・アール・エイ IRA (Irish Republican Army) (国際政治) アイルランド共和国軍. ☆英国からの分離・独立を求め. 英マウントバッテン伯爆殺など. 過激なテロ活動をする. 北アイルランドのカトリック系非合法軍事組織.

アイ・アール・ビー・エム IRBM (intermediate range ballistic missile) (軍事) 中距離弾道弾. ☆2,400~6,400kmを飛ぶ弾道ミサイル. ⇨ICBM.

アイアン iron ①〔金属〕鉄. ⇨メタル¹. ②〔ゴルフ〕金属製頭部の打球棒. ☆「〜クラブ」の英略称. ☆「ロング・〜(1-3番)」 「ミッド〜(4-6番)」 「ショート・〜(7-9番とウェッジ類)」がある. ⇨ウッド. ③→アイロン¹. 「〜.

アイアン・エイジ Iron Age (考古) 鉄器時代. ⇨ストーン.

アイアン・クラブ iron club(s) (ゴルフ) →アイアン.

アイアン・ラング iron lung (医学) 鉄の肺. ☆小児まひ治療などに用いる鉄製呼吸補助装置. ⇨ラング.

アイヴィー・リーグ Ivy League (大学) 米北東部の名門諸大学の称. ☆プリンストン, ハーヴァード, エール大学など.

アイヴォリー ivory ①象牙(製品). ②〔美術・服飾〕象牙色. ☆服地ではピンクがかった薄ベージュ色をいう. ⇨ホワイト. ③〔紙〕光沢のある象牙色の上質洋紙の名称.

アイ・エイ・ティー・エイ IATA (International Air Transport Association) (航空) 国際航空輸送協会.

アイ・エイ・ユー IAU (International Association of Universities) (大学) 国際大学協会.

アイ・エム・エフ IMF (International Monetary Fund) (国際金融) 国際通貨基金.

アイ・エル IL ((誤) // yushin) (航空) →イリュージョン.

アイ・エル・オー ILO (International Labor Organiza-

tion) 【労働】国際労働機構。

アイ・オー・シー IOC (International Olympic Committee) 【スポーツ】国際オリンピック委員会。

アイカップ eyecup 【美容】洗眼用コップ。

アイ・キュー IQ (intelligence quotient) 【心理】知能指数。

☆「(テストの結果出た)精神年齢×100÷生活年齢」で、知能の個人差をしめす数値。⇒メンタル・テスト; AQ。

アイ・シー IC (integrated circuit) 【電子工学】集積回路。

☆小型の基板上に複雑な回路をつけたもの。⇒LSI。

アイ・シー・ビー・エム ICBM (intercontinental ballistic missile) 【軍事】大陸間弾道弾。☆6,400km以上を飛ぶ弾道ミサイル。☆このほか、射程により「IRBM」「MRBM」「SRBM」などがある。⇒ミサイル。

アイ・シャドー eye shadow 【美容】目のふちの陰影をつくるために塗る化粧品。

アイス ice ①氷。②氷菓。③→アイス・クリーム。 「語。

アイス・キャンデー <ice+candy 【冷菓】棒状氷菓。★和製

アイス・キューブ ice cube (電気冷蔵庫内でできる)角氷。

アイス・クリーム ice cream 【冷菓】卵黄・砂糖・牛乳・ゼラチン・生クリーム・香味料などで作る冷菓。☆「〜・コーン」「〜・サンデー」「ヴァニラ・〜」「ソフト・〜」「ナポリタン・〜」「ピーチ・メルバ」など。⇒シャーベット; クリーム。

アイス・クリーム・コーン ice-cream cone 【冷菓】①円錐形ウェーファ容器。②それに入ったアイス・クリーム。★「コーン・アイス」は和製語。⇒コーン²。

アイス・クリーム・サンデー <(米)sundae 【冷菓】チョコレート、シロップ、ナッツ類をかけた、アイス・クリーム。☆もと米ウィスコンシン州のアイス・クリーム店が、日曜(Sunday)に特別販売したこと。★米語はふつう単に「サンディ」。

アイス・クリーム・ソーダ ice-cream soda 【飲料】アイス・クリーム入りソーダ水。★同義の「クリーム・ソーダ」は和略語。

アイス・クリーム・パーラー ice-cream parlo(u)r 冷菓類を主とする喫茶店。⇒フルーツ・パーラー。

アイス・コーヒー <iced coffee 【飲料】氷入り冷やしコーヒー。★英音は「アイスト・コーヒー」。⇒コーヒー。

アイス・ショー ice show 【演芸】(スケートの)氷上ショー。

アイス・スケATING ice skating 【競技】氷上滑走(技)。★同義の「〜・スケート」は誤用語。⇒スケATING。

アイス・スケート ice-skate ①氷上滑走する。②→アイス・スケATING。③[〜・ス] 氷上滑走用の靴。★③の英音は「〜・スケイツ」。⇒スケート。

アイスバーグ iceberg 【海洋】 冰山。⇒タイタニック号。

アイスバーン (独)Eisbahn 【スキー】 氷化雪面。

アイスフォール icefall 【登山】 氷瀑。氷河の滝形急斜面。

アイスボックス icebox ①→リフリジェレーター。②冷蔵庫。

アイス・ホッケー <ice hockey 【競技】 氷上ホッケー。☆氷上滑走により、かぎ形のスティックでパック(円盤)を相手のゴールへ打ちこむ競技。1チーム6人。⇒ホッケー。

アイス・リンク <ice-skating rink →スケーティング・〜。

アイゼン <(独)Steigeisen 【登山】 →シュタイクアイゼン。

アイソトープ isotope 【物理】 同位元素。☆原子番号は同じで原子量の異なる元素。⇒ラジオアイソトープ。

アイデア <idea →アイディア。

アイディア idea ①思いつき。善想。②考え。理念。☆「(ギ)アイデア」「(独)イデー」とも。③【哲学】→コンセプト。★英音は「アイディア」。「アイデア」は和転語。

アイディアリスト idealist ①理想主義者。⇒リアリスト。②【哲学】観念論者。唯心論者。⇒マテИАリアリスト。③【芸術】観念主義者。⇒フォーマリスト。

アイディアリズム idealism ①理想主義。⇒リアリズム。②【哲学】観念論。唯心論。☆「スピリチュアリズム」ともいう。⇒マテИАリアリズム。③【芸術】観念主義。☆形式より観念を尊重する。⇒フォーマリズム。

アイディアル ideal ①理想(の)。②観念的な。⇒リアル。★英音は「アイディ(-)アル」。

アイ・ディー・カード ID<identification> card 身分証明書。登録照合カード。⇒アイデンティフィケーション。

アイテム item ①項目。②【電算】記録データの1件分。

アイデム id. <idem> 同著者(の)。同書物(の)。☆脚注などで引用文の出典を示す用語。もとラテン語。⇒イバイデム。

アイデンティティー identity ①(人・物の)本質。独自性。【例】〜の喪失。②同一(人・物)であること。身元。正体。★英音は「アイデンティティ」。

アイデンティファイ identify (人・物を)だれ・なにであると確認する(見分ける)。【例】〜されていない飛行物体(⇒ユーフォー)。★英音は「アイデンティファイ」。

アイデンティフィケーション identification ①【精神分析】(二者)同一視。②身分証明。本体(身元)確認。⇒IDカード。

アイドル¹ idol ①人気の的。崇拜的。②偶像。

アイドル² idle ひまな。ぶらぶらした。⇒レイジー。

アイドル・トーク idle talk むだ話し。 「⇒マネー」。

アイドル・マネー <idle money 【金融】 未活用(あそび)金。